

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 28 日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520222

研究課題名（和文）アメリカ女性雑誌における「自然」と「環境」についての言説研究

研究課題名（英文）A Study of Narratives on “Nature” and “Environment” in Women’s Magazines in the United States

研究代表者

秋田 淳子（AKITA JUNKO）

岩手大学・人文社会科学部・講師

研究者番号：10251688

研究成果の概要（和文）：

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて発刊されたアメリカ大衆女性雑誌の中でも、*The Ladies’ Home Journal* を考察対象にした。同誌における小説作品を、特に「自然」や「環境」という主題に焦点をあてながら、多層な言説から成る関係性の中に位置づけて分析した。白人中産階級の一般大衆女性が抱く、アメリカの自然観や環境観、また、アメリカ人の世界観の一面を探るとともに、環境文学における新たな可能性を模索することを目的とした。

研究成果の概要（英文）：

I have attempted to explore interpretations of the representation of “Nature” and “Environment” in the *Ladies’ Home Journal* around the turn of the 19th century. After investigating them, it is clear that such representation affected and worked to enlarge contemporary female readers’ sense of space.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：アメリカ文学、女性研究、雑誌研究、アメリカ文化

1. 研究開始当初の背景

アメリカ文学研究の領域で小説を考察対象とする場合、著書の形態をとった作品を扱うのが通例である。しかし、それらの著書は、出版事情が成熟していなかった 19 世紀初頭のアメリカにおいて、雑誌への掲載という初出形態をもつものが多い。雑誌への掲載は特

に無名の新人女性作家に執筆の機会を与えたり、職業作家として自立する機会を与える場となった。1980 年以降に、忘れられてしまってきた作家を出版当時の文脈の中で再評価する動きが高まる。この動向により、1850 年代に発表された、現在では無名の女性作家作品が復刻されるようになった。しか

し、再評価がすすんだ 19 世紀の女性作家作品ばかりでなく、新人時代の男性作家は、1830 年代以降には受容が熟した雑誌という媒体を利用してアメリカ社会で読者を獲得することに成功し、作品を発表している。

申請者は、著書の形態で研究されることが一般的なアメリカ文学研究を、作品の初出形態である「雑誌」という場に着目して再評価することを目的に、平成 10 年から継続して雑誌研究を行ってきた。大衆女性雑誌の通史などの概要把握をすることから始め、特に 19 世紀末に、女性文化構築に絶大な影響力を誇っていた *The Ladies' Home Journal* (*以下、*LHJ* と記す) 研究の有効性に着目してきた。雑誌収録の掲載小説が、連載小説という独特の形態をとり、女性読者に強い影響力を及ぼしてきたかという点を分析してきた。本課題研究では、「自然」や「環境」という主題を焦点に、掲載小説作品を同誌に収録される他の言説との関連性から分析することを目指した。

2. 研究の目的

人間と自然の関わりを一人称で語るネイチャーライティングや、人間・社会・文化とそれとの関わりを広く扱う環境文学に関する研究は国内外で盛んに行われている。近年、特に、地球規模の環境問題が深刻化する中で、環境正義の視点に焦点をあてて文学作品を論じ、現実社会と接点を探ろうとする動きも活発である。たとえば、ミネルヴァ書房刊行の『たのしく読めるネイチャーライティング』(2000)は、「自然」を扱う 120 作品を紹介する。しかし、それが扱う文学作品は限定されている感が否めない。申請者は、女性雑誌に掲載された小説作品をはじめとする多層な言説の中にあるそれらの主題を探し、その意味を分析することを、研究の主たる目的とした。雑誌自体の言説研究が十分になされていない背景があるため、ネイチャーライティングの分類にも属していない作家作品における「自然」の主題分析は、雑誌の言説研究のみならず、環境文学研究にも新たな側面をもたらすものと想定された。本課題研究をとおして、白人中産階級の女性たちの経験や意識の分析に基づく、アメリカの環境意識の生成過程の一層用を示すことを目的とした。

19 世紀末は、西部への拡張を終えたアメリカは、自然との関わりを大きく転換せざるを得なかった。社会運動の一環として自然や環境を対象とするばかりでなく、一般大衆である女性たちも、意識的ではないにしろ、その変容と関わらざるを得ない時代であった。本研究では、周囲の環境が大きく変容を遂げる過程にあったアメリカ社会において、様々な立場にいる女性の自然や環境への意識を探る。

3. 研究の方法

19 世紀から 20 世紀初頭にかけて、大衆女性雑誌の中で最も購読者数の獲得数を誇った *LHJ* を中心に考察する。女性文化に与える影響力が絶大であった Edward Bok の編集長在任期間(1890-1920 年)を研究対象時期として分析をする。白人中産階級以上の女性読者を対象とする保守的な *LHJ* は、家庭という領域を扱う雑誌と一般的にみなされがちである。しかし、同誌の発信する言説には自然や環境への意識が投影されたメッセージが多い。白人中産階級や労働者の女性読者を対象としながらも、同時期に発刊された女性問題や社会問題を扱う女性雑誌 *Woman's Journal* (*以下、*WJ* と記す) 等の内容を比較しながら考察をすすめることで、様々な立場にある 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてのアメリカ女性が共有する場としての「自然」や「環境」という領域の存在を提示していく。

具体的には、同時期に発刊された、大衆女性雑誌の *LHJ* と、the American Women Suffrage Association (AWSA) の機関紙である *WJ* の言説を、マイクロフィルムを媒体に読み解く。これらの 1 次資料を適切に評価するために、同時代に出版された著書形態の 2 次資料を分析する。2 次資料となる主たる媒体としては、家事アドヴァイスブックやレシピブックなどの、小説以外の言説を利用する。

4. 研究成果

(1) *WJ* の言説研究 (平成 23 年度) :

平成 22 年度には 1898 年から 1900 年の *LHJ* における「自然」の表象を分析したために、同年の *WJ* の言説を分析した。AWSA の機関紙という役を負った *WJ* に掲載される言説の多くは、大会のお知らせや報告などの、機関運営に関わる現実的な情報が多い。それらの言説にたいして、読者たちは個人の必要性に応じて取捨選択するものの、受動的にそれらの情報を得る。情報を伝えるための断片的な言説は、*LHJ* の小説を含めたあらゆる言説が、読者との距離を縮め、読者の体験を共有化しようとしていたものとは性質が大きく異なる。また、他紙からの転載が多い *WJ* の小説の言説は、他の情報を伝えるものとは性質が異なり、紙面全体をとおして、「虚構」という異質な空間を提供していることを確認することで、*WJ* における小説の役割を分析した。

AWSA の運営に関わる情報を提供することを目的とする同紙の多くの言説は、それらを取捨選択する際に、読者の能動的な「読み」を必要とする。書く読者は、事実に基づく情報から、断片的な記事が意味する背後のストーリーを読み取らなければならない。そのために、1 紙に 1 号掲載される小説作品は、「ストーリー」を読む力の育成をしていたと推測できよう。そうした力は、断片的な情報を伝

える言説から、自分自身や他の女性たちの状況を反映する「ストーリー」を読み取る力を育て、19世紀末アメリカ社会において、女性の参政権獲得に向けた大きな運動を生み出していくための一助となったことは明白である。本研究は、AWSAの機関紙に収録された作品という、今まで分析対象となつてこなかった特異な場に掲載された小説を考察し、その特徴の一端を示した。その点では、意義があるろうし、LHJにも共通する、女性文化における小説の力を明確に示すことができた。しかし、他紙からの転載が多いという同紙の作品の特徴もあり、「自然」や「環境」という主題からの分析は困難であることも分かった。

(2) LHJの言説における空間意識の拡張とアメリカ帝国主義：

LHJが発行当初から扱う個人の「庭」の表象が、アメリカ全土の「庭」の象徴へと移行していくことに着目した。この時期は、西部拡張が終わり、米西戦争を経て、アメリカが帝国主義を展開していく趨勢と重なる。大衆女性雑誌の読者ばかりでなく、男性を含めた一般大衆も、意識的ではないにしろ、その変容と関わらざるを得ない時代であった。申請者は、個人所有の楽園のイメージの変遷に、アメリカ愛国主義を育成する過程の一端を読み取った。

申請者が注目したのは、1900年を境に、自然を扱うLHJの表象に大きな違いがあることである。1898年以前の表象、1899年に生じた大きな変化、1900年以降に見られる新しい動向という3点の時間軸に着目して考察した。言い換えれば、同誌が提唱する1898年以前の個人の家に付随した「庭」が、全米の庭の特集によって、空間認識が拡大する1899年という過渡期を経て、1900年以降の新たな認識を持つようになることと示される。言い換えれば、1899年には、「アメリカ」という国家が、「庭」が象徴する理想郷であるかのように提示される段階を経て、他国へと空間認識が拡張するようになる。

アメリカ国家を支える国民育成の場としてLHJを利用したBokの編集のもと、帝国主義の理念を推進していくアメリカが要望する女性像を同誌が提示していたとしても不思議ではない。同時代の女性読者はガーデニングをしながらホームの世話や管理に従事するだけでなく、国家の理念の一端を担う国民としての空間認識をもつことが要望されていた。同誌においては、「庭」がアメリカ善とのその紹介に代わり、全米のピクチュアレスな風景を呈する異郷や西部の辺境地帯が脱神話化されていった。そして、1890年代からは他国へと領土を拡張していくアメリカ国民である前提として、アメリカ国内

の領土を確認し、各々の読者が国家への所属意識を持つことが必須であったであろう。LHJにおける結婚や恋愛の主題をユーモアの筆致で描く掲載小説作品ですら、自然を主題にした空間認識の拡張に焦点をあてて考察することで、それが国策の一環を担っていた可能性が指摘できた。

(3) 第一次世界大戦期のLHJの言説と環境意識の関係：

1914年に第一次世界大戦が勃発する。アメリカが参戦したのは、1917年4月のことである。発刊当初からLHJが採った読者参加型の誌面づくりの戦略は、競合する他の大衆女性雑誌を抑え、女性読者の生活において不動の地位を確立していた。2代目編集長Bokの自伝には、彼が大戦当時のアメリカ大統領Woodrow Wilsonと面談を重ねたことが記載されている。Wilsonは、同誌が果たしていた女性読者にたいする影響力を利用した。そのため、大戦期のLHJは、大衆女性雑誌でありながらも、半ば、アメリカ政府容認の公的な機関誌のような役を果たすようになっていた。

戦前に発刊された同誌は、1920年に高まっていた女性参政権運動などの政治的な機運から一線を画し、料理や育児などに関する家事アドヴァイスやファッションに関する言説を掲載していた。しかし、アメリカの参戦を境に、大統領自身による戦時下の協力要請、the Red Cross運動への参加呼びかけなどの戦争色の濃い、政治的メッセージを発信する雑誌へと変貌を遂げる。誌面をあげ、アメリカ参戦の大義を訴え、戦地から離れた女性読者たちの参戦意識を高め、当時の政治中枢部の趨勢に加担するようになっていた。

同誌は、一般の女性たちが日常生活において取り組める、さまざまな「儉約」の方法を掲載する。食糧庁の長官がメッセージを直接発する食品に関する儉約は、考案したレシピや、通常の食品の代用品を用いた調理方法などを特集した。また、エネルギー効率の良い家電製品を推奨したり、ファッションにおいては読者に針仕事や編み物、再利用の仕方などを伝授する。

戦時下の儉約、効率の良い生活の薦めは、内地に残った一般女性たちに戦時中の協力を要請し、参戦意識を高めただけではない。それらは、大量消費社会、都市化、工業化が促進されていた戦前のアメリカ社会の動向の中で見落とされてきた、エココンシャスな暮らしの指南書でもある。LHJの掲載した戦中の生活様式は、環境問題に取り組んだ生活様式の提示でもあった。第一次世界大戦期における、アメリカ初期段階の環境意識に根付いた暮らし方とLHJの言説の関係性については、これから発表論文にまとめていくつもりである。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 秋田淳子、ドメスティック・アドヴァイザーの小説の系譜、英文学研究支部統合号(2012年、2011年度第66回日本英文学会東北支部大会プロシーディング)、査読無、2012、pp141-142
- ② 秋田淳子、*The Woman's Journal*における小説作品の役割についての一考察、東北アメリカ文学研究、第35号、研究ノート、査読有、2012、pp. 72-82
- ③ 秋田淳子、『若草物語』における「自然」の表象についての一考察、欧米言語文化論集(岩手大学人文社会科学部国際文化課程欧米言語文化コース編)、査読無、2012、pp. 59-73
- ④ 秋田淳子、『レディーズ・ホーム・ジャーナル』における「アメリカン・ヒロイン」についての一考察、岩手大学人文社会科学部主催「女性・ヒロイン・社会」国際シンポジウム成果報告書論文集、査読無、2011、pp. 159-167
- ⑤ 秋田淳子、19世紀末の*The Ladies' Home Journal*における「自然」の表象についての一考察、東北アメリカ文学研究、査読有、第34号、2011、pp. 17-30
- ⑥ 秋田淳子、Charlotte Perkins Gilmanの自然の表象についての一考察、東北アメリカ文学研究、査読有、第33号、2010、pp. 32-47

[学会発表] (計3件)

- ① 秋田淳子、ドメスティック・アドヴァイザーの小説の系譜、東北英文学会第66回大会、2011年11月26日、東北大学(宮城県)
- ② 秋田淳子、*The Ladies' Home Journal*における「自然」の表象についての一考察、東北英文学会第65回大会、2010年9月25日、仙台白百合女子大学(宮城県)
- ③ 秋田淳子、『レディーズ・ホーム・ジャーナル』における「アメリカン・ヒロイン」についての一考察、岩手大学人文社会科学部主催国際シンポジウム、2010年9月5日、岩手大学(岩手県)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

秋田 淳子 (AKITA JUNKO)
岩手大学・人文社会科学部・講師
研究者番号：10251688